

プレ「知のオリンピック」オンライン大会発表予稿調査票 (Ver. 3.1)

【評価基準】①新規（奇）性、②論理性、③有効性、④持続可能性、⑤社会貢献性

【SDGsとの関連】当大会6つの競技分野毎に設定しているSDGsを意識して予稿をお考え下さい。

項目	発表予稿	
発表者氏名	木村 礼壮	
研究クラスタ名	ビックデータ・モバイルソリューションの知	
発表テーマ	「特許技術 G-空間 ID 行動情報収集で Society5.0 を実現」	
参加方式（右の候補から選んで下さい）	メイン会場参加・Zoom オンライン参加・Zoom ビデオ参加	
【序論】 1. 現状に対する課題認識 （どのようなイノベーション等の課題に取り組むのか）	健康寿命を延ばし、老後も幸せに暮らすためには予病、未病が重要である。 予病・未病のためにはヘルスケア・医療情報の収集・解析が欠かせない。しかし、現状ではその情報が散らばって管理されており、解析ができない。	
【背景・思い】 2. イノベーション課題解決のための思い・背景 （何故、その思いに至ったのか）	寿命は延び続けているが、健康寿命と寿命の差は既に10年ある。寿命を迎えるまで健康に過ごせることが幸せであり、財政負担を減らすことにも繋がる。	
イノベーション課題解決方法の検証	【価値等の設定】 3. 新たな価値等の設定 （対象とする顧客や新しく生まれる価値等の設定）	健康を損なってからであると、リカバリーが大変である。予病・未病が大切であり、病気にかかる前に予防することが重要である。
	【ニーズ】 4. 価値等を高めるためのニーズの明確化 （対象とする価値・市場ニーズ（顕在・潜在など）の明確化）	分散して存在している健康・医療情報を収集して予病・未病に活かし、老後の幸せ度合を高める。 地域包括ケア実現が叫ばれているが入院前情報・入院中情報・退院後情報が連携されておらず、どこでどれだけの受入れ可能性があるか分からずに医療・介護リソースの非効率化が発生。患者も次の行き先が決まらず、彷徨うことが置かれている。
	【システム】 5. ニーズ対応システムの設計等 （上記ニーズに対応する仕組みやシステムの設計等）	縦割りで管理している情報を横串連携用サーバーで連携することにより病院の診療報酬ポイントの向上、予防による医療費削減が見込まれる。連携した情報を収集し、分散している個人の健康・医療情報を紐づけできる特許技術 G 空間 ID により解析可能とする。最初のステップとして、地域包括ケア推進エコシステムの開発と販売を開始。小さく入れて、大きく育てる地域包括ケア推進エコシステムを提案している。 利害関係者全員がベネフィットを感じるビジネスモデルを構想した。
	【結果・新たな事業価値】 6. 当イノベーションにより生まれた結果や新たな事業価値	小さな自治体、及び、中小規模の病院でもスタートできる PHR データ連携の仕組みの輪を広げていくことにより徐々に共有データが増えていく。

	<p>(上記新システムにより生まれた結果や新たな事業価値)</p>	<p>プライベートクラウド・BPM・G-空間 ID・スマートウォッチを連携させた健康・医療情報の収集・連携・利活用の輪を無理なく広げるエコシステムによって、地域包括ケアを安価に無理なく推進することにより地域住民の病気予防を実施するとともに入院前から退院後を通したケア情報を一気通貫でリモート共有することにより、病院の診療報酬ポイントも大幅に増加し、病院での当該システムへの導入モチベーションが上がる。</p> <p>プライベートクラウド同士が連携できることにより、自然に当該システム導入組織間での情報共有が進み、将来的には健康・医療情報共有基盤としての利用を達成したい。</p>
	<p>【結果の考察】</p> <p>7. 当イノベーション等の結果考察 (当イノベーション提案・研究により生まれた効果や今後の課題等に関する考察)</p>	<p>当該プロジェクトの実施先を増やすための広告・宣伝・営業活動をするリソースが極端に少ないことが問題であり、今後の課題と言える。</p>